

Title	ごあいさつ
Author(s)	千代, 賢治
Citation	癌と人. 1998, 25, p. 1-1
Version Type	VoR
URL	<a href="https://hdl.handle.net/11094/23827">https://hdl.handle.net/11094/23827</a>
rights	
Note	

*Osaka University Knowledge Archive : OUKA*

<https://ir.library.osaka-u.ac.jp/>

Osaka University

## ご あ い さ つ

理事長 千代賢治\*

まずはじめにこの場を借りまして、当財団に深いご理解とご支援を賜りました会員の皆様に衷心より御礼申し上げます。

また、癌の制圧に向け日頃よりたゆまぬ努力を続けておられる関係各位に対しまして、あらためて敬意を表したいと思います。

さて、昨今以前にも増して環境問題がクローズアップされてまいりました。

一昔前までは「環境問題」と言えば排気ガス、騒音などの所謂「公害」をイメージさせるものであり、局地的な問題とされてきました。

しかし最近では温暖化ガス（CO<sub>2</sub>、メタンなど）が重要視されるようになり、影響の及ぶ範囲も全地球的になってまいりました。

先般、京都で開催されたCOP3が温暖化ガスの削減率と経済発展という相矛盾する問題を各国に突きつけたように、もう一部の国、一部の人の努力だけで解決できる問題ではなくなつてまいりました。

現在に生きる我々ひとりひとりが、将来のためにどんな地球を残していけるか真剣に考えていかなければならない時代になったのです。

一方で、自動車メーカー、電機メーカーなどの各企業が早速その問題に向き合い、組織的に対応を始めたことは歓迎すべきことであります。

翻って、当財団はこれまで長年にわたり人間の体の中に生まれてくる癌組織と如何に戦うかを念頭に置いた活動を行つてまいりました。それは健康なる身体の維持を通して豊かな人生を実現させたいという願いが根底にあったのものでした。

豊かな人生の実現のためには「舞台」すなわち「いつまでも変わらぬ地球」が不可欠であることも事実です。

また実際、環境の変化が癌細胞を引き起こす要因となることも以前より広く知られているところです。

このように考えていきますと、守備範囲を広げることが必ずしも是とは申しませんが、我々も「環境問題には関心がない」では済まされないのではないのでしょうか。

この問題の前に私個人は全く無力であることを認めざるを得ませんが、真剣に考えていくことだけは努力を惜しまない所存です。

現下、景気をはじめとする国内諸情勢は未だ明るさが見えませんが、今後とも皆様のご理解ご協力をお願い致しましてご挨拶とさせていただきます。

---

\* (財)大阪癌研究会理事長 住友生命保険相互会社 相談役